

釣り料理で リフレッシュ

おわりあさひ
尾張旭市長(愛知県) 谷口幸治
たにぐち こうじ
Koji Taniguchi



はじめに

私のまち、愛知県尾張旭市は、名古屋市の東に隣接する面積21.03km²、人口8万1600人のコンパクトな市域ですが、都市の利便性と豊かな自然環境を備えたバランスの良さが特徴のまちです。また、WHO西太平洋地域で、都市住民の健康を確保するための仕組みを構築するという都市間ネットワークとして発足した「健康都市連合」の設立メンバーとして、人もまちも健康にする取り組みを行っています。

私は、市長就任以来、市政を進めるにあたり、より多くの市民が市政に参画できる「対話の行政」をまちづくりの基本としてまいりました。現在3期目の市政運営におきましても、この「対話の行政」を念頭に、これまで重点的に取り組みを行ってきた、「健康づくり」「安全安心」教育を含めた子育て支援」の3つの柱に加え、環境への取り組みが重視される昨今の社会情勢を考慮し、「環境」分野の施策を第4の柱として位置付け、重点的に取り組んでいます。

さて、市政運営に忙しい毎日ですが、貴重なプライベートタイムを確保し、趣味を大いに楽しみ、リフレッシュすることを心掛けています。

釣りが一番

私の一番の趣味は釣りです。子どものころから大好きでした。市長就任以前は月に何度も出掛け、旬の魚を求めて、各地に足を運んだものです。遠くは大島、三宅島や種子島などへも遠征しましたが、最近は何に数回ほど、それも近場を中心にとっています。

お目当ての魚が違えば、道具も違い、同じ場所でも時期が異なれば、釣れる魚も異なります。ただ、共通して言えることは、どこに行っても潮の香りや、その日その場所によって変わる海や空の色に心が洗われるということです。自然の中に身を置いて波との会話を楽しむ釣りは、日常を忘れさせてくれる、まさに夢のパラダイスです。ところで、最近、釣り場の趣がかなり変わってきました。以前は集合船に乗ると、乗客の大半はプロ顔負けの常連さんばかりで、釣った魚の自慢話もつばら話題でしたが、今は恋人同士や夫婦で釣りを楽しむ女性も増えました。服装も道具もカラフルでずいぶんとおしゃれになっていくように思います。



港から、いざ出航

釣りに出掛ける前は、まさに子どもの遠足と同じで、適度な緊張感とワクワクした期待感に包まれながら、夜の食卓に新鮮な魚が並ぶのを楽しみに、早朝から車を走らせます。万一、釣れなかった時に買う市場や魚屋さんの場所までもしっかりと頭の中に入れて：釣果はともかく、家に帰って料理し、それを食べた家族の嬉しそうな表情を見ると、翌日からの仕事への意欲がますますわいてくるものです。釣りを通じてたくさん仲間ができました。集まる時はいつも逃した魚の話や穴場情報など、釣り談議に花が咲いて、ますます交流の輪が広がっていきます。こうした趣味は、生きがいづくりに欠かせないものです。健康で楽しい日々を過

ごすためにも趣味は大切にしたいと思っています。

料理も楽しみ

釣り好きの私は、釣り上げた魚を、自



エプロン・三角巾姿の著者



子どもたちとの楽しいひととき

らさばいて料理するため、大漁では困るし、指のサイズの大きさでも面倒くさいので、これもまた困る。やはり手のひらより少し大きいのが私の理想です。十八番は「煮魚」「揚げ魚」なのですが、さばいたどの魚にも、特別に深い感情がわくので、一人でも多くの友人に味わってもらいたくなるものです。相手には迷惑かもしれませんが、「おいしい」と食べてくれるのは、うれしい限りです。魚以外の料理にも大いに興味があり、日ごろからレパートリーを増やそうと、料理の本を読みあさり、お店で食べて気に入った料理はメモを取り、自宅で挑戦しています。

料理には、「食材に触れる」「出来具合を音で確認する」「見た目や香りを楽しむ」「味わう」と五感をフルに使った楽しみがあります。さらには、献立を考えたり、食材を求めて外へ出掛けたりすることも、「健康づくり」に一役買うでしょう。そもそも栄養バランスの取れた料理自体、健康の大切な要素なのですから……。

先日、「対話の行政」の一環として、食について考えようをテーマに「市長を囲む子ども会議」を開催しました。その中で、小学生の子どもたちと地元の食材を使った調理実習を行いました。普段は包丁を握ることもなく、食材の産地を考えることもなかった子どもたちも参加してくれまし

た。献立は、地元産の野菜をたくさん使ったオムライスと野菜スープ。みんなで協力しながら料理をすることで、野菜が苦手な子も頑張るって食べることができました。私もエプロン・三角巾姿で子どもたちと言葉をお互いに交わしながら、調理法のアドバイスなど、本当に楽しいひと時を過ごしました。最近、輸入食品の安全性のニュースや地産地消という言葉の普及などによって、食の安全に対する意識が高くなってきました。今は、時間や手間をかけなくてもお店で何でも手に入る時代ですが、私は子どもたちに、こういう時代だからこそ、自分で何が必要なのか、選んで食べることができ、食べ物一つひとつに関わっている人たちに感謝できるようにしてほしいと常々思っています。



子どもたちが作った市長のオムライス